

早稻田大學校友會一日遊行程推薦(二)

角板山公園－大溪老茶廠(午餐)－李梅樹紀念館－三峽清水祖師廟－欣葉台菜晚餐

*請注意, 由於大型巴士嚴格政策, 一天用車不得超過10小時, 敬請見諒。

角板山公園

角板山公園は台湾の復興鎮にあり、長い歴史を持つ重要な観光名所です。公園の周囲には小さな和風寮の建物が保存されており、その代表的な建物が保存状態の良い特別招待館で、日本統治時代の歴史的外観を示しています。和風寮の建物に加えて、公園の近くにはもう一つ注目に値する建物があります。それは、救國團復興青少年活動センターです。このセンターは元々、日本統治時代大正3年(1914年)に建てられた「角板山賓館」で、当時は木造建築で、木材は地元の插天山のヒノキやクスノキが使われていました。大正12年(1923年)、日本の裕仁皇太子様が台湾を訪問した際、角板山賓館は皇太子様の離宮として予約されたため、「王子樓」と呼ばれています。裕仁親王はタイトなスケジュールのため直接訪問することはできませんでしたが、この時代の歴史は依然として角板山に謎と魅力を加えていました。角板山の史跡には、昭和5年に建立された「佐久間知事記念碑」もあります。佐久間馬太は日本統治時代に最も長く台湾総督を務め、9年間在位しました。記念碑の元の場所は「復興亭」として改築され、亭の銘板には「蔣中正」の文字が刻まれました。この史跡に現代的な様式と歴史が融合した雰囲気を感じます。



角板山公園位於台灣復興鄉，是一處充滿歷史意義的旅遊勝地。公園周邊仍保留了一些日式宿舍建築，其中最具有代表性的是保存完好的專賣局招待所，這座建物見證了日據時代的歷史風貌。

除了日式宿舍建築，公園附近還有另一處值得一提的建築—救國團復興青年活動中心。這座中心原為日據時代建於大正3年(1914年)的「角板山賓館」，當時是一棟木造建築，所用木材取自當地插天山區的檜木及樟木。大正12年(1923年)，日本皇太子裕仁訪台，角板山賓館曾被預定為皇太子的御泊所，因而被稱為「太子樓」。雖然裕仁太子最終因行程緊湊未能親臨，但這段歷史仍為角板山增添了幾分神秘與魅力。

角板山的歷史遺跡還包括建於昭和5年(1930年)的「佐久間總督追懷紀念碑」。佐久間左馬太是日據時代任期最長的台灣總督，在位9年。紀念碑原址現已改建為「復興亭」，亭匾上刻有「蔣中正」題字，為這處歷史遺址增添了現代風貌與歷史的交錯感。



大溪老茶廠(參觀與午餐)

大溪老茶廠(製茶工場)を訪れるとゆったりとした「茶を味わう時間の旅」が始まります。1926年、日本人が大溪茶廠の前身である角板山工場を建設しました。ここから「お茶長者」と言われた大溪における茶業の輝かしい歴史が始まりました。お茶の香りと文化に魅せられ、工場の隅々にまで目を奪われます。静かな池のほとりを散歩して、都会の喧騒から離れた静けさを感じてみましょう。百数十本の「茶磚(煉瓦状に固められたプーアール茶)」の壁や年季の入った香りを味わいながら、読書エリアでリラックスしたり、お茶室で友達とお茶を飲みながらおしゃべりを楽しみましょう。その際には小さな旅の思い出をノートに書き留めるのを忘れなく。

大溪老茶廠隱身於慈湖附近的山上，是座融合台、日、英式建築風格的茶廠，前身為1926年日本人興建の角板山工廠，當時台茶興盛，外銷歐美達到巔峰，將茶奉為「黑金」的年代裡，大溪茶廠在台灣早期製茶產業中，十足占有舉足輕重的地位，公視《茶金》也曾來此取景。

李梅樹紀念館

紀念館の設立趣旨は、台湾第一世代の近代画家・李梅樹を記念するものです。三峡の地に生まれ育った李梅樹は、生前芸術制作や美術運動に力を注ぎ、東京美術学校で習得した写実的な画風を生涯に渡って貫きながら、台湾郷土の美を愛し、台湾の美術運動における「万里の長城」と称されました。李梅樹は三峡の祖師廟再建工事に生涯の精力を傾け、芸術作品を創作しようという意識の下、民間芸術とアカデミックな美術を結合させた「東方芸術の殿堂」を完成させました。本館では李梅樹の様々な時期の作品を展示しているほか、李梅樹の生前の書簡、絵画道具、画稿などを館内の文物陳列室にともに展示しています。

本紀念館紀念畫家李梅樹教授。三峡土生土長的李梅樹教授，生前致力於藝術創作，美術運動，一輩子堅持以東京美術學校習得的寫實路線，擁抱台灣鄉土之美，被稱為台灣美術運動中的「萬里長城」。1947年開始，李梅樹教授將畢生的精力投入三峡祖師廟的重建工程上，以創作藝術品的精神，完成結合民間藝術與學院藝術的「東方藝術殿堂」。



三峡清水祖師廟

祖師廟は1769年に創建されました。祖師廟を中華の歴史と文化、寺廟藝術の殿堂にしようと主張する芸術家李梅樹の企画設計にのっとって工事が始まったのが1947年です。洋画の素養もある李梅樹教授の手によって、西洋美術的色彩も感じられる祖師廟は徐々にその全容を整えているのです。時代が下って安溪の人たちが台湾に移住してきたとき、三峡を定住地を選び、ここに守護神として清水祖師を祭りました。清水祖師の靈驗はあらかたで、以来、三峡の人びとの信仰と社会活動の中心的役割を果たしています。建築、彫刻、絵画、どれをとっても台湾全島の寺廟のお手元となっています。

祖師廟創建於西元1769年，由藝術家李梅樹先生主導設計規劃，他主張祖師廟該成為一座融合中華歷史、文化和寺廟藝術的廟宇，整座祖師廟乃是以木為頂、以石為基的建築，採五門三殿式的格局，廟頂層層疊疊，每根脊上都有富麗堂皇的裝飾，廟內則無處不雕、無處不琢。其中最精彩的是廟中的石雕、石刻，不論就技巧與手法分析，都是民間藝術之最，其師傅中不乏已列國寶級之人物。



欣葉台菜創始店 (晚餐)

欣葉はテーブル11台から始まりました。設立当初は、現会長の指揮のもと、台湾料理レストランにあるのは清粥小菜だけで大皿のおもてなし料理はないというイメージを覆しました。台湾の宴席料理を台湾料理に取り入れた最初のレストランです。欣葉はその後、消費者の多様なニーズに答えるため、様々なブランドを立ち上げ、「欣葉」は1977年創業の老舗レストラン。台湾料理に日本料理ビュッフェレストラン、しゃぶしゃぶ店、カレー、マレーシア料理、香港・広東料理など幅広く展開する飲食グループです。

欣葉的料理是會呼吸的健康菜餚，傳承精神與成熟技術，提供道地台菜，親切自然的體貼服務，讓顧客永遠掛著心滿意足的微笑。欣葉是從11張桌子開始，成立之初由現任董事長李秀英女士經營，打破當時台菜餐廳只有清粥小菜、無大菜既定印象，是第一家將台灣筵席菜帶入台菜的餐廳。因應消費者多方面餐飲需求，欣葉致力開發不同業種與品牌，目前有台菜、日式自助餐、日式火鍋、咖哩、馬來西亞、港粵及素食烘焙。

